

1. 「一直線上にある」を式にする

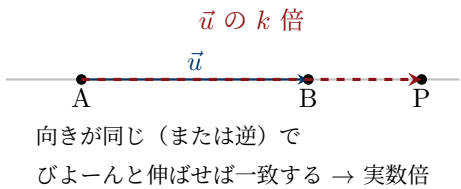
ベクトルの強みは、「3 点が一直線上にある（共線）」という幾何学的な状態を、シンプルな等式で表現できる点にある。

共線条件 (基本形)

2 点 A, B が異なるとき, 点 P が直線 AB 上にあるための必要十分条件は,

$$\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AB}$$

となる実数 k が存在することである。



これは「平行条件 $\vec{a} // \vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a}$ 」において, 始点を A に共有させたものと同じである。

2. 位置ベクトルと係数の和

始点を任意の点 O（原点）とした場合どうなるか. $\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AB}$ を書き換えてみる。

$$\begin{aligned}\vec{p} - \vec{a} &= k(\vec{b} - \vec{a}) \\ \vec{p} &= (1 - k)\vec{a} + k\vec{b}\end{aligned}$$

ここで $1 - k = s, k = t$ とおくと, $s + t = 1$ となる。

共線条件 (係数の和が 1)

点 P が直線 AB 上にある \iff

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} \quad \text{かつ} \quad s + t = 1$$

例題 1 (基本確認)

$\triangle OAB$ において, $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$ とする. 点 P は直線 AB 上にあるか確認せよ。

解答: 係数の和を確認する. $\frac{1}{3} + \frac{2}{3} = 1$. よって, 点 P は直線 AB 上にある. (具体的には 2 : 1 に内分する点)

3. 図形の証明問題

「3 点 A, B, C が一直線上にあることを示せ」と言われたら,

$$\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AB}$$

となる実数 k を見つければよい (始点はどこでもよい) .

例題 2 三角形と共線条件

$\triangle OAB$ において, $\vec{a} = \overrightarrow{OA}, \vec{b} = \overrightarrow{OB}$ とする. $\overrightarrow{OP} = 3\vec{a} - 2\vec{b}, \overrightarrow{OQ} = -\frac{3}{2}\vec{a} + \vec{b}$. このとき, O, P, Q は一直線上にあることを示せ.

4. 「係数の和が 1」の応用

$\overrightarrow{OP} = s\vec{a} + t\vec{b}$ において, 点 P が直線 AB 上にある条件は $s + t = 1$ である. これを利用して, 未知の係数を決定することができる.

例題 3 (交点の位置ベクトル・導入)

$\triangle OAB$ において, 辺 OA を 1 : 2 に内分する点を C, 辺 OB を 2 : 3 に内分する点を D とする. 線分 AD と BC の交点を P とする. $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする.

- (1) 点 P は直線 AD 上にあるので, $\overrightarrow{OP} = (1 - s)\vec{a} + s\overrightarrow{OD}$ と表せる. これを \vec{a}, \vec{b} で表せ.
- (2) 点 P は直線 BC 上にあるので, $\overrightarrow{OP} = (1 - t)\overrightarrow{OC} + t\vec{b}$ と表せる. これを \vec{a}, \vec{b} で表せ.
- (3) \vec{a}, \vec{b} の一次独立性を用いて s, t を求め, \overrightarrow{OP} を決定せよ.

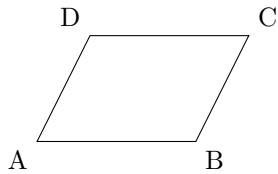
次回予告

この「2 通りで表して係数比較」が, ベクトルにおける交点計算の必勝パターンである.

確認テスト (A: 基本)

練習 A1 (一直線上にある条件)

平行四辺形 ABCD において、辺 BC の中点を E、辺 CD の中点を F とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{b}, \overrightarrow{AD} = \vec{d}$ とする。 $\overrightarrow{AE}, \overrightarrow{AF}$ を \vec{b}, \vec{d} で表し、 \overrightarrow{AC} との間に共線関係があるか (一直線上にあるか) 調べよ。



Memo / Answer

練習 A2 (係数の和)

$\triangle ABC$ と点 P について、
$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{4}\overrightarrow{AB} + k\overrightarrow{AC}$$
 が成り立つ。点 P が直線 BC 上にあるとき、実数 k の値を求めよ。

Memo / Answer

確認テスト (B: 標準)

練習 B1 (一直線の証明)

$\triangle OAB$ において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。辺 OA を $3:2$ に内分する点を C、辺 OB を $3:1$ に内分する点を D とする。線分 BC と AD の交点を P とするとき、 \overrightarrow{OP} を \vec{a}, \vec{b} で表せ。
(ヒント: P は BC 上 $\rightarrow \vec{p} = (1-s)\vec{b} + s\vec{c} \dots$)

Memo / Answer

解答 (A: 基本)

Memo / Answer

A1 解答:

(1) \overrightarrow{AE} : E は BC の中点なので $\overrightarrow{BE} = \frac{1}{2}\vec{d}$.

$$\overrightarrow{AE} = \vec{b} + \frac{1}{2}\vec{d}$$

(2) \overrightarrow{AF} : F は CD の中点なので $\overrightarrow{DF} = \frac{1}{2}\vec{b}$.

$$\overrightarrow{AF} = \vec{d} + \frac{1}{2}\vec{b}$$

(3) $\overrightarrow{AC} = \vec{b} + \vec{d}$.

$\overrightarrow{AE} + \overrightarrow{AF} = \frac{3}{2}(\vec{b} + \vec{d}) = \frac{3}{2}\overrightarrow{AC}$. これは A, E, F が一直線という意味ではない. $\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AE}$ となる k は存在しないため, A, C, E は一直線上にはない. (図を見れば明らか) 補足: 問題の意図としては「計算練習」です. もし A, E, F が一直線上にあるなら $\overrightarrow{AF} = k\overrightarrow{AE}$ となるはずですが, $\vec{d} + \frac{1}{2}\vec{b} = k(\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{d})$ 係数比較すると $1 = k/2, 1/2 = k \implies k = 2, k = 1/2$ (矛盾). よって一直線上にはありません.

Memo / Answer

A2 解答:

点 P が直線 BC 上にある条件は, \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AC} の係数の和が 1 になることである. (始点 A が基準になっているため)

$$\frac{1}{4} + k = 1$$

$$\therefore k = \frac{3}{4}$$

確認: $\vec{p} = \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{3}{4}\vec{c} = \frac{1\vec{b}+3\vec{c}}{4}$. これは線分 BC を 3:1 に内分する点である.

解答 (B: 標準)

Memo / Answer

B1 解答:

条件より $\overrightarrow{OC} = \frac{3}{5}\vec{a}$, $\overrightarrow{OD} = \frac{3}{4}\vec{b}$.

(1) 点 P は線分 BC 上にあるので, $s:(1-s)$ に内分すると考える.

$$\overrightarrow{OP} = (1-s)\overrightarrow{OB} + s\overrightarrow{OC} = (1-s)\vec{b} + \frac{3}{5}s\vec{a} \quad \dots (1)$$

(2) 点 P は線分 AD 上にあるので, $t:(1-t)$ に内分すると考える.

$$\overrightarrow{OP} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OD} = (1-t)\vec{a} + \frac{3}{4}t\vec{b} \quad \dots (2)$$

(3) 係数比較 \vec{a}, \vec{b} は一次独立なので:

$$\begin{cases} \frac{3}{5}s = 1-t \\ 1-s = \frac{3}{4}t \end{cases}$$

第 2 式より $s = 1 - \frac{3}{4}t$. これを第 1 式へ代入. $\frac{3}{5}(1 - \frac{3}{4}t) = 1 - t$

$12(1 - \frac{3}{4}t) = 20(1 - t)$ (両辺 20 倍)

$$12 - 9t = 20 - 20t \implies 11t = 8 \implies t = \frac{8}{11}.$$

(2) へ代入して: $\overrightarrow{OP} = (1 - \frac{8}{11})\vec{a} + \frac{3}{4} \cdot \frac{8}{11}\vec{b} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{6}{11}\vec{b}$

答え: $\overrightarrow{OP} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{6}{11}\vec{b}$